



炬火を掲げていざ謳う

No.21



我々の泉鳥取

2022年10月24日（月）

編集・発行 大阪府立泉鳥取高等学校 広報委員会

大阪府阪南市緑ヶ丘1-1-10

<https://www.osaka-c.ed.jp/custom91.html>

施設秘話（3）

進路指導室の変遷

— 狭い進路が食堂そばから2階西南 広々とした空間に —

泉鳥取高校の施設については、昭和51(1976)年の創立以来、若干の変更があります。最も変わったのが、進路指導室の位置と、学年職員室の設置です。本日は進路指導室のお話をしましょう。

開校当初こそ進学者と就職者の比率は4：6程度、難関大学への合格者も出していましたが、その後4期生以降には就職を希望する生徒が増加し、7期生で進学：就職が25：75となり、10期生から15期生の頃には、15：85という学校になっていきました。

当時の進路指導室は、現在生徒指導室になっている、A棟の食堂寄りにありましたが、普通教室1教室分しかなく、就職用の資料と進学用の資料が同時に置けない狭い部屋でした。ですから、指導室は、主に就職指導室として使用し、現在は3年生の学年職員室となっている場所に進学用の過去問題を保管していました。平成3(1991)年頃には、1学年の生徒数が10クラス規模となったため、進路指導室を一般教室に移し、2階に2教室分のスペースを確保しようとしたのですが、この時には校内調整がうまくいきませんでした。

平成15(2003)学年職員室を設置する際、当時の進路指導室と技能員室の間にあった「カウンセリング室」に進学資料室を移動させましたが、まだ手狭でした。その後平成27(2015)年、校内の調整ができ、進路指導



昔の進路指導室

室、進路資料閲覧室がA棟の西南部にでき、一時期に比べて3倍の面積を持つ進路指導スペースとなりました。進路に関わる講義のできる講義スペースも確保することができて、しっかりとした進路指導ができるようになっています。



進路指導室と閲覧室

